

シラバス

指定番号 64

商号又は名称：株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(1) 職務の理解 (6 時間)			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人を支える「在宅/施設におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2	2	0	【講義内容】 1、介護保険による居宅サービス 2、介護保険による施設サービス 3、介護保険外のサービス 【演習内容】 講師自身の過去の経験等を踏まえた事例や情報を伝え、どんなサービスに興味があるのか等、意見交換をおこない、イメージしやすくする。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	【講義内容】 1、介護サービスを提供する現場の実際 2、介護サービスの提供に至るまでの流れ 3、介護過程とチームアプローチ 【演習内容】 ①②項目の説明を踏まえ、介護職の仕事や現場の理解がしやすくなるようにまずは施設見学もしくは DVD を視聴する。 見学（視聴）後には、介護現場について気付いた事や疑問点等を様々な視点から意見を出し合うためのグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎「職務の理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援・介護予防という、介護や福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	1	3	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における権利擁護と人権尊重 ・介護職に求められる権利擁護の視点 ・介護における尊厳の保持の実践 ・介護職に求められる視点 ・ICF ・QOL の考え方 ・ノーマライゼーションの理念 ・高齢者に対する虐待の種類 ・身体拘束 ・介護保険指定基準において禁止の対象となる行為 ・障害者虐待の特徴や実態 ・高齢者の尊厳の保持 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人権と尊厳の保持 2、ICF 3、QOL 4、ノーマライゼーション 5、虐待防止・身体拘束禁止 <p>【演習内容】</p> <p>介護職に求められる権利擁護の視点や尊厳保持の実践に欠かせないキーワードを踏まえ、その人らしい生活を送ることができるよう、どのような配慮が必要か、どのような事をされたくないか等、自分が要介護者になった場合を想定し、私たちが提供するべき介護について検討する。</p>
② 自立に向けた介護	3	1	2	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立 ・自立と自己選択・自己決定 ・自立への意欲と動機づけ ・残存能力の活用と重度化防 ・介護予防の考え方 ・その人らしさの理解 ・廃用症候群 ・生活における介護予防の視点 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、自立支援 2、介護予防 <p>【演習内容】</p> <p>どのような視点で介護をしたり接することが、利用者の自立支援・重度化防止・介護予防につながるかイメージしやすいように具体的な事例を活用し、介護を行う際にどのような注意が必要かなどのポイントを押さえる。</p>

③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	【講義内容】 1、人権について 2、人権の取り組みについて 3、身近な人権について
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「介護における尊厳の保持・自立支援」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(3) 介護の基本 (6時間)			
指導目標	1、介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解する。 2、介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 ・現代の介護問題 ・介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点 ・根拠のある介護 ・他職種連携の理解、異なる専門性をもつ職種の理解 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護環境の特徴 2、介護の専門性 3、介護にかかわる職種
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護職に求められる法的規定 ・介護職に求められる行動規範 ・日本介護福祉士会倫理綱領 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護福祉士の倫理
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・リスクマネジメントの必要性 ・事故防止、安全対策の実際 ・誤嚥や窒息の予防 ・生活の安全 ・介護事故発生時の対応、報告 ・生活の場での感染対策 ・感染対策の3原則 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護における安全の確保 2、事故予防、安全対策 3、感染対策
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職のこころとからだの健康管理 ・ストレス、燃え尽き症候群 ・手洗いのポイント ・衛生管理 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護職の心身の健康管理 2、感染予防
(合計時間数)	6	3	3	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 (9時間)			
指導目標	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として、最低限知っておくべき制度の目的・サービス利用の流れ・各専門職の役割や責務について、その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	4.5	2.5	2	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景 ・介護保険制度の基本理念 ・介護保険制度の改正の内容 ・保険者と被保険者 ・給付の対象者 ・要介護認定等の流れ ・ケアマネジメントの流れ ・保険給付の種類と内容 ・制度を支える組織・団体の役割 ・介護保険の財源 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護保険制度創設の背景及び目的・動向 2、介護保険制度のしくみの基礎的理解 3、制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	1.5	0.5	1	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療行為と原則に医療行為ではない行為 ・チーム医療 ・訪問看護 ・介護職と看護職の専門性と連携のポイントと必要性 ・リハビリテーション ・リハビリテーション医療の過程 ・リハビリテーションと介護の連携 ・病棟の分類 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、医療行為と介護 2、訪問看護 3、施設における看護と介護の役割・連携 4、リハビリテーション
③ 障がい者総合支援制度及びその他制度	3	1.5	1.5	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害と障害者の概念 ・自立支援給付と地域生活支援事業概念 ・介護給付と訓練等給付によるサービス利用の流れ ・自立支援給付と利用者負担 ・日常生活自立支援事業の対象者 ・成年後見制度 ・苦情関連制度 ・個人情報保護 ・消費者保護法 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、障害者福祉制度の概念 2、障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 3、個人の人権を守る制度の概要
(合計時間数)	9	4.5	4.5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称： 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は、一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが、専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきではない)行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・人間的・効果的なコミュニケーションの基本 ・メッセージの送り手と受け手 ・言語的チャンネルと非言語的チャンネル ・利用者の思いの把握 ・利用者や家族とのコミュニケーション ・家族の心理の理解 ・バイスティックの7原則 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、コミュニケーションの意義・目的・役割 2、コミュニケーションの技法 3、利用者・家族とのコミュニケーションの実際 4、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <p>【演習内容】</p> <p>コミュニケーションの技法を伝えた上で、利用者の状況に応じて意図的にコミュニケーションを取る方法を、バイスティックの7原則を意識しながら体験する。</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>【通信学習課題の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義や目的と種類 ・介護記録 ・記録の書き方と留意点 ・記録の保護と管理 ・報告・連絡・相談の必要性と介護職の役割 ・報告・連絡・相談の具体的方法と留意点 ・会議の意義と目的 ・職場内ミーティング ・ケアカンファレンス・事例検討 ・サービス担当者会議 <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、記録における情報の共有化 2、報告・連絡・相談 3、コミュニケーションをうながす環境
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「介護におけるコミュニケーション技術」
------------	--

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64
商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(6) 老化の理解 (6時間)			
指導目標	加齢・老化に伴う、心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気付き、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3	0	【講義内容】 1、老年期の定義 2、老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 3、老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響
② 高齢者と健康	3	3	0	【講義内容】 1、高齢者の症状・疾患の特徴 2、高齢者の疾病と日常生活上の留意点 3、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「老化の理解」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64
商号又は名称： 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解 (6 時間)			
指導目標	介護において、認知症を理解することの必要性に気付き、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	0.5	0.5	0	【講義内容】 1、認知症ケアの理念 2、認知症ケアの視点
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.5	2	0.5	【通信学習課題の内容】 ・脳の構造と機能 ・認知症とは ・記憶と認知症の記憶障害 ・認知症に類似した状態(せん妄) ・認知症の症状 【講義内容】 1、認知症とは 2、認知症の診断 3、認知症の原因疾患とその病態 4、認知症の治療と予防
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.5	2	0.5	【通信学習課題の内容】 ・認知症の中核症状 ・認知症のBPSD(行動・心理症状) ・認知症の人の環境整備 ・認知症の人への対応 ・実際のかかわり方の基本 【講義内容】 1、認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 2、認知症の人への対応 【演習内容】 認知症の特性や視点を踏まえた上で、行動・心理症状における対応についてグループディスカッションを行い発表する。
④ 家族への支援	0.5	0.5	0	【講義内容】 1、家族への支援 2、認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア
(合計時間数)	6	5	1	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「認知症の理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解 (3時間)		
指導目標	障害の概念と ICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
			講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5
			【通信学習課題の内容】 ・障がいとは ・国際生活機能分類(ICF) ・医学モデルと社会モデル ・リハビリテーションの定義 ・インクルージョン 【講義内容】 1、障害の概念と ICF 2、障害者福祉の基本理念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5	1	0.5
			【通信学習課題の内容】 ・身体障害 ・内部障害 ・知的障害の精神発達年齢 ・精神障害のある人の介護の留意点 ・発達障害の特性と支援のポイント ・難病のある人を理解する時の側面 【講義内容】 1、身体障害 2、知的障害 3、精神障害 4、発達障害 5、難病
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0
			【講義内容】 1、家族の理解と障害の受容支援 2、家族負担の軽減
(合計時間数)	3	2	1

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「障害の理解」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称：株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (12 時間) ア 基本知識の学習			
指導目標	1、理論や法的根拠に基づく、介護の基本的な考え方を習得する。 2、介護技術の根拠となる「こころのしくみ (学習・記憶・感情・意欲等)」に関する知識を習得する。 3、介護技術の根拠となる「からだのしくみ (人体構造や機能)」に関する知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	1	1	【通信学習課題の内容】 ・介護の理論 ・介護の考え方の変化 ・介護の見方 ・根拠に基づいた介護 ・介護の法的根拠 ・介護福祉士の定義の歩み ・介護福祉士の資格取得方法 【講義内容】 1、理論に基づく介護 2、法的根拠に基づく介護
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5	2	3	【通信学習課題の内容】 ・学習のしくみ ・記憶のしくみ ・記憶の分類 ・感情のしくみ ・意欲のしくみ ・自己概念とライフステージ ・生きがいと QOL の視点 ・要介護状態と高齢者の心理 ・不適応状態を緩和する心理 ・適応機制 (防衛機制) 【講義内容】 1、学習と記憶に関する基礎知識 2、感情と意欲に関する基礎知識 3、自己概念と生きがい 4、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	3	2	【通信学習課題の内容】 ・生命の維持・恒常のしくみ ・骨、関節、筋 ・ボディメカニクスの基本原理 ・中枢神経と末梢神経 ・体性神経と自律神経 ・感覚器と呼吸器 ・消化器系とは ・泌尿器、内分泌、生殖器 ・循環器、血管系、リンパ系 ・血液の成分とはたらき 【講義内容】 1、生命の維持・恒常のしくみ 2、人体の各部の名称と動きに関する 3、骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 4、中枢神経と体性神経に関する基礎知識

				5、自律神経と内部器官に関する基礎知識 【演習内容】 バイタルサインの測定方法
(ア 生活支援技術の 基礎的理解 (12 時間))	12	6	6	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際「介護に関する基礎的理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称: 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (52 時間) イ 生活支援技術の講義・演習			
指導目標	1、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。 2、尊厳を保持し、その人の自立及び自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える、介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	3.5	3.5	0	【講義内容】 1、生活と家事の理解 ① 自立生活を支える家事 ② 家事援助のポイント 2、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ① 調理 ② 洗濯 ③ そうじ・ごみ捨て ④ 衣服の補修・裁縫 ⑤ 衣服・寝具の衛生管理 ⑥ 買い物 ⑦ 家計管理
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3.5	3.5	0	【講義内容】 1、快適な居住環境に関する基礎知識 ① 居住環境とは ② 安心で快適な生活の場づくり 2、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 ① 生活空間と介護 ② 住宅改修 ③ 福祉用具の活用
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	【講義内容】 1、整容に関する基礎知識 2、整容の支援技術 ① 洗面 ② 整髪 ③ ひげの手入れ ④ 爪の手入れ ⑤ 化粧 ⑥ 衣服の着脱 【演習内容】 ※講師1名体制で指導 1、上衣の着脱介助 (片麻痺/一部介助/座位) 2、下衣の着脱介助 (片麻痺/一部介助/座位) 3、上衣の着脱介助 (片麻痺/全介助/臥床) 4、下衣の着脱介助 (片麻痺/全介助/臥床) 5、浴衣の着脱介助

<p>⑦ 移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	11	11	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、移動・移乗に関する基礎知識 2、移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 3、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 4、移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 5、移動と社会参加の留意点と支援 <p>【演習内容】 ※講師1名体制で指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、体位変換／仰臥位から側臥位へ 2、体位変換／側臥位から端座位へ 3、体位変換／端座位から立位へ 4、肢体不自由者の杖歩行介助（片麻痺/平地/階段） 5、視覚障害のある人の歩行介助 6、車いすの点検 7、ベッドから車いすへの移乗介助（片麻痺） 8、車いすからベッドへの移乗介助（左片麻痺） 9、車いすの介助（平地走行、段差、坂道）
<p>⑧ 食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	7	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、食事に関する基礎知識 2、食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 3、楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 4、食事と社会参加の留意点と支援 <p>【演習内容】 ※講師1名体制で指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、とろみの付け方 2、食事の介助（片麻痺/一部介助/座位・臥床） 3、視覚障害のある人の食事介助（クロックポジション） 4、自助具の活用方法 5、口腔ケア
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	7	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、入浴・清潔保持に関連する基礎知識 2、入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 3、楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 <p>【演習内容】 ※講師1名体制で指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、入浴の介助・浴槽出入り（片麻痺/一部介助） 2、足浴の介助（座位） 3、全身清拭
<p>⑩ 排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	7	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、排泄に関する基礎知識 2、排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 3、爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 <p>【演習内容】 ※講師1名体制で指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ポータブルトイレの介助（片麻痺/一部介助） 2、紙おむつの交換（片麻痺/全介助）
<p>⑪ 睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	3	3	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、睡眠に関する基礎知識 2、睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 3、快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 <p>【演習内容】 ※講師1名体制で指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ベッドの使用法と留意点 2、ベッドメイキング
<p>⑫ 死にゆく人に関したところからだのしくみと終末期介護</p>	3	3	0	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、終末期に関する基礎知識 2、生から死への過程 3、「死」に向き合うところの理解 4、苦痛の少ない死への支援 <p>【演習内容】</p> <p>自らの終末期の希望と自分の大切な人の終末期を考える時間を</p>

				取る（自分が終末期介護を受ける立場になった時、どのようにして欲しいか・して欲しくないか、また大切な人が終末期を迎える時、どうしたいか等）。
イ 生活支援技術の講義・演習（52時間）	52	52	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際「自立に向けた介護の展開」 介護ベッド、車いす、歩行補助杖、ポータブルトイレ、紙おむつ等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 64

商号又は名称：株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (11 時間) ウ 生活支援技術演習			
指導目標	1、生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する。 2、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護過程の基礎的理解	4	4	0	【講義内容】 1、介護過程の目的・意義・展開 ① 根拠に基づいた介護の実践 ② 介護過程の展開イメージ 2、介護過程とチームアプローチ ① チームアプローチにおける介護職の役割 【演習内容】 ※講師 1 名体制で指導 ICF に基づくアセスメント表を使用し、情報の整理やどこにどの情報を入れるか等、グループワークにて作成する。 出来上がったアセスメント表に基づいた介護計画を、介護計画書等を用いて展開することで、介護過程の展開を実体験し流れやポイントを理解させる。
⑭ 総合生活支援技術演習	7	7	0	【講義内容】 1、演習を行うにあたって 2、介護過程の振り返り 【演習内容】 ※講師 1 名体制で指導 1、「食べたくない」と訴える施設入所者の援助 2、できるだけ外に出たいと思っている利用者の援助 3、トイレでの排泄にこだわりを持つ利用者の援助事例上記 1～3 の事例 (うち 1～2 事例) をもとに支援の検討、技術演習、実施後の評価までの一連の過程を行う。 グループ毎に改善点・課題を討議し、各グループ発表、最後に講師による講評を行い、理解を深める。
ウ 生活支援技術演習 (11 時間)	11	11	0	
合計 (75 時間)	75	69	6	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 2 巻 自立に向けた介護の実際「生活支援技術演習」 介護ベッド、車いす、歩行補助杖、ポータブルトイレ、紙おむつ等
------------	--

シラバス

指定番号 64
商号又は名称： 株式会社エバカラー

科目番号・科目名	(10) 振り返り (4 時間)		
指導目標	研修の全課程を振り返り、習得した知識・技術について再確認し、継続的な研修が大切であることを理解する。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
			講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	0
			【講義内容】 1、研修を通じて学んだこと ① 研修を修了して感じたこと、考えたこと ② 学んだことを再確認する 【演習内容】 初任者研修全体を通して、新しく学んだこと・再確認できたこと、現在の自分に足りないこと (今後継続して学ぶべきこと) や、今後のキャリアについてグループディスカッションを行う。
② 就業への備えと研修修了後における実例	1	1	0
			【講義内容】 1、継続的な研修が大切 2、介護職のキャリアアップと介護職がめざす「介護」
(合計時間数)	4	4	0

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際 「研修を終えての振り返り」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。